

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日

令和 7 年 2 月 3 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人敬英会		
事業所名	グループホーム 幸楽の里		
サービス種類	認知症対応型生活介護		
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919-3		
自己評価作成日	令和7年2月3日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和7年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは豊かな自然に囲まれ、リビングや居室からも四季折々の風景を楽しんで頂ける環境にあります。地域ならではの干し柿作りを毎年皆で作り、出来た干し柿は、皆のおやつや食事のおかずとして料理に使われます。普段のお食事でもホームの中で職員が手作りして提供しています。季節に応じてそうめんや、鍋、おせち料理も手作りにて皆さんに喜んで頂いています。お食事を最期まで口から食べて頂けるようにと歯科衛生士の指導を受け必要であれば歯科医の治療も受けることができます。主治医に往診医入って頂き、希望に応じて看取り支援にも取り組んでいます。家族様と職員が協力し合い最後までその人らしく穏やかに過ごして頂けるように努めています。家庭的な雰囲気の中で過ごして頂きたいという思いから職員は私服で利用者様と接しています。外国籍の職員も仲間として一緒に働いており元氣あふれる職場になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

大阪府と奈良県との県境に位置する橋本市にある事業所は、山の樹木に囲まれた自然豊かな環境となっています。グループホームと同じ建物の通所介護以外にも、隣接した敷地には同じ法人の老人保健施設や居宅介護支援事業所などがあり、互いに協力しながら適切な運営に取り組んでいます。

法人から権限を受けた各ユニットの管理者2人が、その責任と役割を果たすために互いに協力や相談をしながら、利用者の生活の質や職員の労働環境などにも配慮した運営を図っています。

現状の他のグループホームでは見かけなくなった事業所での献立作成、買い出し、調理の実施を継続することで、その日の利用者の好みへの対応や食事ができるまでの雰囲気などが、事業所の生活感の大切な一部となっています。

地域の夏祭りや敬老会などの季節行事や、清掃活動への参加、地域の方を事業所に招いてのクリスマスイベントなど、コロナ禍では一時は止まっていた地域との交流も積極的に再開しています。家族の事業所内での面会や家族との外出も、感染症対策を十分に取って積極的に再開しています。

学校などと連携して外国籍の職員育成や採用にも積極的に、労働力を求めるだけでなく通学支援の実施や、敷地内に住居を確保するなど生活面への配慮もみられています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識し仕事は出来ていないが玄関先に掲示し、目に入る様にはしている。会議の場では理念から逸脱する事がないように、管理者が方向性を統一し、実践につなげられるよう努めている。	法人理念とは別に事業所の理念を掲げて、地域での生活や利用者の尊厳を大切にしたい運営に取り組んでいます。各ユニットの管理者2人が意思疎通を図りつつ、その理念の実現に取り組んでいます。	外国籍の職員が今後増えていくことが予想されることから、改めて外国籍の方も理解・共有しやすい言葉などで、目指す理念を掲げ直すことを検討されては如何でしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染留意面から日常的に交流は難しい状態は続いているが、地域運営推進会議を通して新たな交流の場に出店の要望があり参加させて頂き、新たな地域の方との交流の場となった。	地域の住居環境からも日常的な関わりは困難な面もあるが、お祭りや敬老会、運動会などの地域行事や、定期的な清掃活動にも利用者と職員とで参加して地域の方々との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年より地域の盆踊りや秋祭りへの参加・施設のクリスマスにも来て頂き交わる機会が戻りつつある。地域運営推進会議を活かして認知症の人の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員・長寿会会長・区長・民生委員等の参加の下、隔月に開催しホームの状況報告・行事報告を行っている。その中でボランティアの紹介がありクリスマス会にお招きし落語を楽しむことができた。	コロナ禍で中断していた期間も資料を配布して意見を収集するなど、会議を継続していました。現在は事業所に行政や地域の代表などの参加で開催しています。集めた意見などは施設会議などで職員間でも共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当者に直接連絡を入れ、不明な点はお聞きし、問題解決にあたっている。又、市からの入所相談にも対応している。	橋本市の各担当者とは必要に応じて連絡を取り合っています。その他、市主催の研修会や会議があれば、必要に応じて参加しています。市の窓口相談があった場合など、市担当者から問い合わせもあります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関は基本施錠せず、自由に出入り出来るようになっているが、新規入所にて離設の可能性が高い場合は時間を決め施錠することもあった。長期に及ばないように、支援方法の話し合い、また、主治医に相談も行っている。自施設にて勉強会に取り組んでいる。	原則玄関は施錠しない方針で、出掛ける利用者には職員が付き添うようにして、元の自宅まで行くこともあります。身体拘束については、委員会や研修を通して意識を高め共有を図っています。	

7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様との関係性が近いことから勘違いをし、一線を越えた失礼な言葉かけや対応に気を付け、皆で取り組む必要がある。会議でも常に議題に上げ見逃されることが無い様に努めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員もいるが、全職員が研修を受けていない為、理解には至っていない。勉強会の機会を持っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には事前に案内文をお送りし、契約の締結時には十分に説明を行い、疑問点がある時はその都度説明させて頂き、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは来所時や面会時、時にはSNSを使い緊急な要望にもお応えする事がある。利用者様からは献立要望や個々の希望を出来る限り添える様に努めている。	ご家族とは電話だけでなくSNSなども活用して、家族からの要望や問合せに応えたりしています。 公園などへの外出希望に対して、事業所の車で送迎支援を行って家族と過ごす時間を大切にしたりしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	月2回の法人全体会議に代表者が出席し、内容については書面で報告している。毎月のフロアー会議には、ほぼ全職員が参加、業務改善や要望等あれば話し合い、決定している。	会議では職員が積極的に話せるように、利用者を担当制にしています。行事の企画なども担当者の提案を管理者は受け止めて、実現できるように全員で協力して進めています。 また、年に一度の人事考課の面談の他、職員からの相談事なども管理者は積極的に応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度自己評価、後に、管理者が一人ひとりと面接を行い総合評価、能力に合わせ等級が上がるシステムになっている。月公休9日、毎月の有休も取りたい方は取得しプライベートも充実できるように勤務作成時にも要望を出来る限りかなえ、組んでいる。外国籍の里帰り長期休暇の要望にも答えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年より外部への研修にも参加している。又、外国より留学学生受け入れから就労までの支援、外国人雇用も積極的に行っている。又、介護福祉士合格者には奨励金制度を設けている。		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人の移動にて介護技術や新しい考え方を取り入れることはあるが、外の同業者と接することがなく、今後も難しい課題である。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学时に要望や質問等をお聞きし、施設の情報をできる限り解りやすく説明している。施設の様子がわかりやすい幸楽新聞を見て頂く事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時に要望や不安な事をお聞きし、家族が入所に至るまでの葛藤や自身を責める事の無い様に、話をゆっくりお聞きし、入所してから、共に支える関係性でありたいことをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めて	家族の置かれている状況、ご本人の状況をお聞きし、ご希望に添える様に他施設を紹介する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームのあり方を念頭におき、職員一人ひとりの役割が何かを考え、利用者様にとって安心でき、頼れる存在であるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にもご協力頂くこととお伝えし、受診においても、家族様と協力している。どうしても難しい場合は施設職員で行くこともあるが、必ず状態を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	お友達や子供、孫が会いに来てくれる事もあり、ご本人様や関係者が望む支援に努めている。	ご家族だけでなく、友人や知人の面会も多くあります。家族との外出も行われ、通い慣れた理美容店でカットや毛染めをしたり、お墓参りに出掛けたりしています。慰問行事の開催も再開しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、気の合う方を把握し関係性が上手くいくように仲を取り持ったり、席を隣にするなどしている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にご逝去されたと連絡が入り、お家にお邪魔しお仏壇に手を合わせ一緒に過ごした時を懐かしく話をする事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症により意思疎通が困難、意思確認が難しい場合でも日常生活の中で日々の行動や、発言を気に留め、知り得た情報は職員間で共有し、プランにも反映するよう努めている。	一人ひとりの思いや意向を大切に、日頃から編み物やオセロ、計算ドリルなどができるように準備しています。誕生日には好みの献立を取り入れたり、日々の衣類選びも一緒に決めたりしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に担当ケアマネや家族様、本氏からの情報得、これまでの生活歴やライフスタイル、こだわり、家具の配置等可能な限り維持できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	脳トレにおいても能力に応じて内容を変え【出来る】達成感を感じて頂けるように配慮している。職員の仕事分担や時間を考え、利用者様と余暇の時間がとれるようにしている。日曜日には日頃できないレクを考えマンネリ化の日々にならない様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のフロー会議にて担当職員を主に課題や提案を出し、職員皆で情報の共有を含めながら意見を出し合い、往診時には主治医、訪問歯科の助言を受け、面会時には家族様ご本人の意向をくみ取り、それぞれの視点を基に介護計画を作成している。	利用者は普段の関わりから、家族は面会時などにその都度意向等を確認しています。共有し易いようにファイリングしたり、細かく把握するために利用者担当制にするなど、チームで取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースへ日々のケアを記入、業務日誌に一日の状態をまとめ、申し送りし、月1回のフロー会議にて再度情報の共有、認識の再確認、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療ニーズは往診又は受診かを家族様、ご本人の意向に応じ決めて頂いている。訪問歯科、訪問理髪希望に沿って提供することができる。福祉用具専門員と連携がありその人にあった福祉用具を提供できる。利用者の必要物品の買い出し家族に変わって買い物代行することもある。出来る限り家族様と共に支えあう関係性に努めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年12月の催しにボランティアにて歌手や落語家さんに来ていただきひと時を楽しむ事が出来ました。今後もこのような機会を状況に応じて増やして行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族様の希望をお聞きし、家族様同行のかかりつけ医の受診を継続か、施設紹介の往診医にお願いするか選択して頂き、本人や家族の考え方、本氏の体調に則した医師にお願いしている。	入所以前からのかかりつけ医や眼科、耳鼻科などの専門医への受診も、家族の協力も得たり事業所からの送迎・付き添い支援などで可能となつています。また、希望に応じて複数の医院の医師が往診に入っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	職員が毎日のバイタルチェックや本人の観察を継続し、変化があれば平日の日中はデイの看護師、週末や夜間の特変は老健の看護師に対応をお願いしている。GH常駐の看護師はいないので緊急な対応が困難な場合もある。受診が必要な場合は家族様とも連携し対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院に利用者のアセスメントシートや服薬状況をお知らせし、適切な治療を受けれるよう協力。入院中は定期的に家族と病院関係者と情報を交換をし、スムーズに退院できるよう環境を整えている。退院時は病院からのサマリーの提供をお願いし、退院後適切な対応が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の対応について家族や本人の意向の確認を行う。又、本氏の体調悪化時は家族に逐一状況をお知らせしている。終末期が近づけば、再度医師、介護、家族様と話し合いの場を持ち、それぞれ可能なこと、不可能なことを具体的に話し合い、本氏、家族様共に納得行く支援に取り組んでいる。	家族や本人の意向に合わせて、主治医や職員と検討・共有の上、看取りケアを実施した実績もあります。 介護の重度化に対しては、併設の老健や他の特養などへの入所支援を含めて、今後の過ごし方などの相談にも応じています。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急持ち出しシートを作成し、緊急連絡先や既往歴、処方薬等を利用者の急変時に全職員が対応出来るように常備している。各利用者のかかりつけ医があり、それぞれに急変時や事故発生時に連絡を入れ支持を仰ぐようにしている。事故発生時や受診時は家族様に連絡を入れ、ヒヤリハットや事故報告書・受診報告書を記入、全職員が共有して原因究明や予防策対応策を考え、再発の予防に努めている。自施設は外国人職員も多く、主治医や家族様への連絡や報告がまだ十分出来ない事も多く、緊急時の対応は不十分、もう少し研修が必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や火災を想定し、職員、利用者共に安全で迅速な対応ができる様、年3回避難訓練を定期的に行い、マニュアル化に努めている。又消防署にお願いし、定期的に消火器の取り扱いや心肺蘇生術を全職員が習得できるよう努めている。しかし利用者の重度化により全員参加や実演演習が出来ない事もあった。地域運営推進会議や地域行事に参加して交流を深め、災害時の協力を得易い関係作りを築けるよう心掛けている。	年に2回の消防避難訓練の他、地域での災害訓練にも参加しています。火災以外の災害もハザードマップを確認して、土砂災害や地震災害にも備えています。食事や飲料水、その他災害物品など、保管状況の確認・入替だけでなく、災害時に職員が迅速に使えるように保管場所や使い方などの確認や共有を図っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをもちつつも、上から目線の言い方、命令口調にならないよう、誰に聞かれても恥ずかしくない違和感のない言葉かけや対応できるように、個々の職員が日々努力し続ける必要を感じている。	個々の人格を尊重した丁寧な言葉で関わりながら、親しみのある表情やトーンなどでの声掛けに努めています。言葉選びには職員間で意識して、気になる言葉などは互いに声を掛け合うなどしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の方は自己決定できるので意向に沿う対応をしている。決めることが難しい方に関しては、その方の表情を汲み取り生活リズムの把握にて支援を行うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者の希望に沿った支援は出来ていないが、職員の都合のみを押し付けるのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、出来るだけその人らしい過ごし方が出来るように努めている。		

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容時には本氏にご希望をお聞きし、スタッフに伝えるなど思考や好みを大切にしている。職員サイドで服を選ぶときは毎日同じ衣類にならないよう、その人らしい服のコーディネートに努めている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を考えますが、同じメニューが続かないように気をつけています。誕生日の時は食べたいものをお聞きし作ることもあります。季節にあった口に美味しい、そうめんや、お鍋、たまにベトナム料理、行事食なども皆様に喜んで頂いています。食事作りお手伝いにジャガイモの皮むき、盛り付け、食後のお盆拭きなど役割をもち力を発揮していただいている。	職員で日毎の調理担当を振り分けて、担当者が食材や内容が重ならないように、ユニット別で旬の食材も取り入れた献立を作成しています。陶器の食器を使って盛り付けにも配慮するなど、見た目にも美味しい食事となっています。誕生日のリクエストや利用者とのケーキ作りなどにも取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個人記録にて把握、好みが合わず食事量が少ない時は、バナナや好みの物を代替え提供している。水分はアクエリや紅茶、好みの物を提供している。管理栄養士の指導により献立の内容、調理の仕方など助言を受け、できる限りバランスの良い食事が摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、出来ないところは介助、夜間入れ歯の方はポリデントにつけている。週に一度歯科衛生士が口腔ケアを行い口腔内の清掃、確認をしている。必要であれば歯科医師による歯科治療も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人記録を確認、個々の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。立位が難しい方でも排便時訴え時には二人介助にてトイレで排泄出来るように支援しトイレでの排泄が増えている。	排泄の個別記録から読み取って、日中・夜間とも原則トイレでの排泄支援を実施しています。共用のトイレであるため、回数の多い方や移動が不安定な方などには、夜間はポータブルトイレも活用して工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の改善を意識した食事作りは出来ていないが、バランスの良い食事の提供をしている。毎日朝の申し送りで排便の有無の報告、必要であれば看護師にお願いし医療的処置を行っていただくか、追加の処方薬にて調整、便秘からくる周辺症状などがないように気をつけている。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回、主に午前中に入浴して頂いている。一対一対応なので、話をしながら、ゆっくりとお風呂、又はシャワー浴+足湯を楽しんで頂いている。お風呂のお湯の温度も好みがあり、その人に合わせ対応している。冬至にはゆず風呂など香りや季節を楽しんで頂ける工夫をしている。	隔日に入浴を実施して、週に3回以上の入浴の機会を設けています。体調や気分に合わせて日を変更したり、時間を空けたり代替ケアを実施するなど、また原則同性介助で、声掛けから最後までをマン・ツー・マンで実施するなど、プライバシーにも配慮した支援を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋で休みたい方、テレビを見てゆっくり過ごしたい方などその人に併せて対応している。一日車椅子で過ごすことが無い様にソファやリクライニングの椅子を活用している。部屋の温度にも気を付け寒すぎたり、暑すぎたりしないように細目に確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースの蓋に薬名、用法を記載した紙を貼り職員全員が把握出来るようにしている。服薬後再度残薬がないかチェックをしている。往診後には往診報告書を作成し、職員全員確認するようになっている。服薬変更などがある時は必ず申し送りを行い利用者様の変化を見逃さない様に気をつけている。服薬変更後の様子は次回往診時に必ず報告するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリ体操、脳トレ、時間がある時はトランプやレクを楽しみ、洗濯干しやたたみ、お盆拭き等できる事をお願いし退屈な一日で終わらないように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外へ常に出かけてしまう方には、出来る限り希望に添い見守りを行っている。個人的に家族様の要望に答え帯同、外出支援にて施設外での家族様との時間を過ごして頂いた。昨年は各フロアーにて外食を楽しむことができた。	玄関に施錠はせずに、日常的な外出がしやすい環境となっています。家族の協力も得ながら、法事の外出や公園などへの個別の外出の支援も、車での送迎も含めて実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の所持は家族様やご本人の希望があれば対応可能であるが、現在はお金を使う場面がない状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	個人で携帯を持っておられる方は自由に使用して頂いている。お持ちでない方で希望があれば家族様に電話を繋げる配慮をしている。		

52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で快適に過ごせるよう、温度、冬になると加湿器を入れ湿度管理にも配慮している。共有空間は毎日掃除している。ホールの大きな窓からは季節の移り変わりが見て取れる木々や山が見える。ホールの照明は暖かく感じる電球色にこだわっている。	食事などをする共用空間を真ん中にして、左右に分かれて居室の空間が配置された構造で、個と共を区別する工夫がなされています。共用空間には畳の和室やソファがいくつか配置され、そこでも個と共を区別して過ごせるように配慮されるなど、居心地よく過ごせる工夫がみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは2か所設置し、ホールの席は同じ席が良い人以外は、固定せずにいつでも好きなところに座っていただいている。一人でゆっくりしたい場合はお部屋に行き休んで頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや机、椅子を設置されている方もいらっしゃいますが多くは、衣装ケースのみの方が多い。個室は隔日に掃除抗菌タオルを使い手の触るところは拭き掃除衛生に努めています。	居室内は隔日に職員が可能な方は利用者とも協力しながら清掃を行い、清潔が保たれています。 机や家族写真、趣味の道具など使い慣れた物や親しみを感じる物が持ち込まれて、それぞれに合わせた居心地の良い環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自らトイレに行かれるが、場所の把握が難しい方の為に案内矢印を貼り付けることもある。又、排泄すること自体の理解が難しい方の為にしょうべん小僧のイラストを便座蓋に貼り付けたりと個々のレベルに応じて環境づくりに配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない